



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	地域密着型フリーペーパーによる地域報道から考える「当事者ジャーナリズム」の重要性：北海道オホーツクエリアの「経済の伝書鳩」を事例に
Author(s)	小西, 健太
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	学士(文学)
Issue Date	2022-03-24
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/84567
Type	bachelor thesis
File Information	2021Konishi.pdf



令和3年度卒業論文

地域密着型フリーペーパーによる地域報道から考える

「当事者ジャーナリズム」の重要性

～北海道オホーツクエリアの「経済の伝書鳩」を事例に～

人文科学科 人間システム科学コース 地域科学研究室

指導教員 宮内 泰介

学生番号 01182019

氏名 小西 健太

目次

1 序論	3
2 地域概観・経済の伝書鳩の概要	6
2-1 地域概観	6
2-2 経済の伝書鳩の概要	7
3 地域文化の伝承	11
4 地域報道の現状と行政とのかかわり方	13
4-1 地域報道	13
4-2 行政のチェック	15
5 経済の伝書鳩と地域住民のかかわり	19
5-1 読者としての地域住民	19
5-2 地域の若年層とのかかわり	21
5-3 地域住民の紹介	22
5-4 読者投稿	23
5-5 小括	27
6 地域における役割と地域貢献	28
6-1 地域密着型フリーペーパーの地域貢献の事例	28
6-2 新型コロナウイルス関連の報道	28
6-3 留辺薬高校問題	31

7 経済の伝書鳩が抱える課題	35
7-1 話題の地域的偏り	35
7-2 経営上の問題と公共性の維持	36
7-3 潜在的な地域課題への対処	37
7-4 小括	38
8 結論	39

1 序論

日本の各地方では、過疎化や高齢化、それに伴う人口減少、都市との格差の広がりなど、様々な問題が発生している。全国規模ではなく地域を対象に情報発信している地域メディアには、地域の再生において重要な役割を担うことが期待されている（深澤, 2013:73）。

地域メディアの中には、広告収入をもとに無料で配布される地域密着型フリーペーパーがある。フリーペーパーは駅や店に置かれていたり、ポストの中に届けられていたり、私たちの生活の中に溶け込んでいる。

フリーペーパーは「記事と広告で伝える無料の地域生活情報紙誌」と定義され、他メディアに比べて、配布地域や内容、ターゲットの選定などで多くの自由を獲得している（久保, 2013:397）。

フリーペーパーの地域貢献の視点は、読者に寄り添い、役に立つ情報を届ける使命を負うというところに生まれる。具体的な地域貢献の活動としては、武蔵野市において、「リビングむさしの」が住民から自転車マナーを募集し、自転車が関与した交通事故の撲滅に貢献した事例や、「リビング和歌山」が地域通貨「ちゃら」を発行した事例、「リビングさいたま」が埼玉の特産物を利用した井のレシピを募集し、深谷ネギなどを使った地産地消井を誕生させた事例などがあげられる。武蔵野市の事例は地域の課題共有・解決、和歌山県の事例は地域経済の活性化、埼玉県の場合は地域資産を見つめなおす、といった形での貢献がみられる（久保, 2013:401）。

フリーペーパーをいくつか分類すると、地域生活情報紙の中でも最も数が多く、新聞販売店が独自に発行することが多いコミュニティペーパー、読者ターゲットを絞り込んだターゲットペーパーなどに分けられる。ニュースを掲載するものはニュースペーパーに分類される（久保, 2013:398-399）。

ニュースペーパーに分類されるフリーペーパーは、数が少なく、1955年に創刊された滋賀県の『滋賀報知新聞』は県内の一部地域で24,000部を日刊で発行し、複数の新聞に折り込む形で配布されている。2002年7月には東京首都圏で日刊のニュース紙『HEADLINE TODAY』が登場したが、経営が行き詰まり、4か月後には『TOKYO HEADLINE』に紙名を変え、週刊に転じた（稲垣, 2008:20-21）。

日刊の地域密着型フリーペーパーの一つとして名前があげられるのが、北海道オホーツクエリアで配布されている『経済の伝書鳩』である。

1983年の創刊以来、経済の伝書鳩に広告が流れることを阻止したい北海道新聞との間で競争があり、経済の伝書鳩は日刊化を実現して対抗した。この競争によって、それまで地域情報の担い手として一定の役割を果たしていた地域新聞2紙（北見新聞、北見毎日新聞）が廃刊、休刊へと追い込まれた。結果的に北見市の日刊地域紙は経済の伝書鳩のみとなった（山田, 2011:140）。

経済の伝書鳩は役場の汚職記事から地域の学校の休校のお知らせ、町内の草野球の結果

まで地域の人々に役立つ情報を網羅している（久保, 2013:299）。

久保まり子によれば、北見市ではバスの車内や美容院などいたるところで「経済の伝書鳩」が読まれており、その人たちに「全国紙や地方紙は読まないのですか」と聞くと、「私たちの新聞はこっちだから」と「経済の伝書鳩」を指さすという。この言葉はなにげない一言だが、「私たちみんなの新聞」という共通認識が見られ、地域貢献のメディア・フィールドとして申し分がなく、あとはその上にどのような貢献方策を描いていくかである（久保, 2010:89）。

以上のことから、本研究では、この『経済の伝書鳩』をフリーペーパーの特徴的な事例として取り扱う。

フリーペーパーに関する先行研究では、稲垣太郎はフリーペーパーにおける広告効果の重要性や海外における日刊無料紙の動きについてまとめ、日本における今後の日刊無料紙の動向を展望している（稲垣, 2008）。また、大学でのフリーペーパー講座の教育効果、フリーペーパーを保存することの重要性についても言及している（稲垣, 2013）。久保まり子はフリーペーパーのメディアとしての特徴、歴史、発行部数など基本的な情報をまとめ、課題についても言及している（久保, 2013）。各地のフリーペーパーの調査を通じて、具体的な地域貢献の事例も挙げている（久保, 2010）。松江健介は多様化するフリーペーパーの事例から、ウェブサイトとのかかわり方について言及している（松江, 2013）。山後喬は、Hot Pepper や「FLYING POSTMAN PRESS」の事例から、フリーペーパーの成功要因について考察している（山後, 2014）。

深澤弘樹は地域メディアが担う社会的機能についてまとめ、社会関係資本を築く地域メディアの「つながり」をもたらす役割について指摘し、従来の客観主義とは異なり、地域住民に寄り添った報道姿勢である「当事者ジャーナリズム」の必要性について論じている（深澤, 2013）。影山裕樹は地域メディアと同じような意味合いだが、あえて「ローカル・メディア」という言葉を採用し、全国のメディアのづくり手への取材を通して編集やデザインについてまとめている（影山, 2016）。岡村圭子も「ローカル・メディア」という言葉を採用し、『地域雑誌 谷中・根津・千駄木』を中心に、他のメディアと比較しつつローカル・メディアの意義と役割を考察している（岡村, 2011）。

以上、先行研究では、型にはまらない取り組みを続けるフリーペーパーの事例を取り上げ、それぞれの形で地域に貢献していることを示している。中でも日刊のフリーペーパーが希少であることに触れられている。また、フリーペーパーを含む地域メディアの、地域住民に寄り添う報道や紙面づくりに注目している。それを踏まえ、本研究では、北海道オホーツクエリアで『経済の伝書鳩』を事例に、地域内の各主体のかかわり方や抱えている課題について明らかにし、今後の地域貢献の形について考察する。経済の伝書鳩は地域内の多様な話題を紙面上で扱っているため、記事をジャンルごとに分類したうえで記事の分析を行い、それぞれが担っている機能について考察する。

本研究は、聞き取り、メールによる聞き取り、『経済の伝書鳩』の記事調査、文献・資料

調査などによった。

経済の伝書鳩編集部の K さんに対し、電話上での聞き取り調査を 4 回（2020 年 6 月 24 日、8 月 12 日、2021 年 10 月 29 日、12 月 7 日）にわたって行った。1 回目は取材・配布のことや、行政・地域住民との関係性、紙面の変遷など基本的なことについて聞いた。2 回目以降は主に気になった記事について掲載した経緯、反響などを聞いた。

投稿者への聞き取り調査では、常連の投稿者 Y.K さんに対して、電話上で投稿の経緯、投稿者、読者として経済の伝書鳩や北見市に対して感じることを聞いた（2020 年 7 月 16 日）。また、北見に行った際に別の常連の投稿者 N さんに対しても同様の内容で直接話を聞いた（2021 年 11 月 15 日）。

留辺蘂高校関係者 2 名からは、地域住民や経済の伝書鳩とのかかわりについて直接話を聞いた（2021 年 11 月 15 日）。

北見に行った際に地域住民数名に対しても直接経済の伝書鳩のことについて話を聞いた（2021 年 11 月 15 日、16 日）。

また、経済の伝書鳩が配布されている各市町にも経済の伝書鳩に関する質問を問い合わせフォームで送り、北見市・網走市・美幌町・訓子府町・津別町の担当部署・担当者からメールの返信で回答を得た（北見市に対しては 2020 年 8 月、その他市町に対しては 2021 年 11 月）。

株式会社伝書鳩の公式ホームページ上で過去の紙面上に掲載された記事が閲覧できるようになっているが、掲載から 1 年が経過すると見られなくなるようになっている。記事の分析はこのホームページ上で閲覧できる記事・過去に閲覧できた記事に拠っている。2021 年 11 月に北見市に行った際、2021 年 1 月からの紙面を北見市立中央図書館でおおまかに確認し、実際の紙面に載っていてホームページ上では見られない記事として、子供たちの写真付きの記事の一部¹、全珠連珠算など各種検定試験の合格者名簿などがあることが分かった。これらの記事は本稿では扱わない。

¹ 児童紹介の連載「元気!ハトっこ」、幼児紹介の連載「ちびっ子登場撮ってもいっしょ」など。「時事通信社発もぎたてのホットニュース」も紙面のみでの掲載となっている。

2 地域概観・経済の伝書鳩の概要

2-1 地域概観

本節では北見市公式ホームページを参照し、株式会社伝書鳩の本社がある北見市の基本的な情報をまとめる。

平成 18 年に北見市・端野町・常呂町・常呂郡留辺蘂町が新設合併し、足寄町を抜いて北海道の市町村の中で面積が 1 位になった。各自治区には自治区長およびまちづくり協議会が置かれている。まちづくり協議会は、市長その他の市の機関より諮問された事項について審議し、答申することや協議会が必要と認める事項について審議し、意見・要望を行うことができる。自治区長の役割は自治区における行政の総合調整、自治区の振興などである。端野・常呂・留辺蘂自治区には、それぞれ総合支所が置かれている。総合支所では、地域との連携を図りながら、住民に身近な行政サービスやまちづくり協議会の事務などが行われている。

北見自治区には、北見市の都市機能が集積しており、経済、教育、医療などさまざまな分野において、オホーツク圏域の中心的役割を担っている。また、北見工業大学や日本赤十字北海道看護大学を中心とした高等教育機関や企業、行政が連携し産学官連携などによる創造的な研究教育拠点としての機能を有している。

端野自治区は、田園風景を背景にしながら、市街地中心部に子育て支援施設や小中学校、社会教育施設などが集積し、居住空間と田園風景が調和したまちづくりが進められている。

常呂自治区は、北部はオホーツク海に面し南部及び東部は山地、丘陵地であり、西部はイワケシ山系及び北海道随一の大湖として知られるサロマ湖が広がっている。

留辺蘂自治区は、豊かな森林に囲まれ地場産木材を活用した高次加工の集成材生産など、林産業や農業が盛んな地域で、おんねゆ温泉や山の水族館など観光客を惹きつける観光資源もある。

面積は 564,69 km²の留辺蘂自治区が最大で、次いで 421,08 km²の北見自治区、278,29 km²の常呂自治区、163,50 km²の端野自治区という順になっているのに対し、2015 年時点では総人口の 80%以上が北見自治区に集中している。各自治区で人口減少、少子高齢化が進行しており、中でも留辺蘂自治区では 2015 年時点で 65 歳以上の割合が 2000 年から 17.8%増え、40%を超えた。

表 1 2000 年から 2015 年までの北見市各自治区における年齢階層別人口構成比の変化

自治区別	年齢階級	人口				構成比			
		2000	2005	2010	2015	2000	2005	2010	2015
旧北見市 北見 自治区	0～14 歳	16,492	15,068	13,661	12,546	14.9%	13.8%	12.7%	11.9%
	15～64 歳	76,183	72,643	68,579	63,393	68.9%	66.3%	63.5%	60.0%
	65 歳以上	17,957	21,839	25,691	29,670	16.2%	19.9%	23.8%	28.1%
	合計	110,632	109,550	107,931	105,609	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
旧端野町 端野 自治区	0～14 歳	823	799	708	524	15.2%	14.7%	13.5%	10.7%
	15～64 歳	3,433	3,345	3,149	2,745	63.6%	61.7%	59.9%	56.2%
	65 歳以上	1,143	1,281	1,397	1,616	21.2%	23.6%	26.6%	33.1%
	合計	5,399	5,425	5,254	4,885	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
旧常呂町 常呂 自治区	0～14 歳	862	688	545	427	16.5%	14.0%	12.0%	10.5%
	15～64 歳	3,166	2,929	2,601	2,285	60.5%	59.8%	57.4%	56.2%
	65 歳以上	1,205	1,283	1,382	1,354	23.0%	26.2%	30.5%	33.3%
	合計	5,233	4,900	4,528	4,066	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
旧留辺蘂町 留辺蘂 自治区	0～14 歳	1,083	836	646	448	11.2%	9.5%	8.2%	6.6%
	15～64 歳	6,007	5,150	4,303	3,297	62.1%	58.6%	54.9%	48.9%
	65 歳以上	2,588	2,803	2,883	2,998	26.7%	31.9%	36.8%	44.5%
	合計	9,678	8,789	7,832	6,743	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
総計	0～14 歳	19,260	17,391	15,560	13,945	14.7%	13.5%	12.4%	11.5%
	15～64 歳	88,789	84,067	78,632	71,720	67.8%	65.3%	62.6%	59.1%
	65 歳以上	22,893	27,206	31,353	35,638	17.5%	21.1%	25.0%	29.4%
	合計	130,942	128,664	125,545	121,303	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

北見市合併検証報告書 6 ページより引用²

2-2 経済の伝書鳩の概要

経済の伝書鳩はオホーツクエリアの話題を扱う情報紙で、日刊の地域密着型フリーペーパーという特徴を持っている。1983 年に発刊して以降、次第に北見市周辺に配布エリアを拡張しており、現在は北見市（端野自治区、留辺蘂自治区、常呂自治区、北見自治区）、網走市、訓子府町、置戸町、津別町、美幌町、大空町の 2 市 5 町、約 85,000 世帯で、全戸配布を行っている。2020 年まで日曜日を除いて週 6 日発行していたが、2021 年からは平日

² 北見市合併検証報告書
https://www.city.kitami.lg.jp/common/img/content/content_20210611_163513.pdf より引用

のみの配布になっている³。

伝書鳩編集部の K さんによると、配布を行うのは「紙面宅配員」と呼ばれる各地域のアルバイトであり、宅配員は約 400 人いる。宅配員は主婦や年配の男性・女性が多い。記者は北見本社に 5 人、網走支店に 1 人、美幌営業所に 1 人の合計 7 人いる。北見本社の 5 人のうち 2 人は社会・政治、2 人が自然・イベント、1 人は置戸・訓子府方面の話題をメインで担当している。日によって紙面のページ数は増減し、多い日で 16 ページ程度、少ない時で 4 ページ程度である。広告の大きさは依頼主が選択できるようになっており、大きさに応じて料金も変化する仕様となっている。

広告が紙面の角や端に配置され、隙間を埋めるような形で記事が掲載されている。紙面の構成は日によって大きく変化するが、テレビ欄が前から数えて 2,3 ページ、お悔やみ広告が後ろから数えて 2,3 ページに配置されるケースが多くみられる。

では、『経済の伝書鳩』にはどのような記事が載っているのだろうか。WEB サイトに掲載された記事にはジャンルと地域が示されており、記事のジャンルは「話題」「社会」「スポーツ」「告知」などに分類されている。記事に示されたジャンルを参考に、「社会」のジャンルが示された記事の中でも人物紹介の側面が強い記事、読者投稿に当てはまる記事は独自のジャンルを設けるなどして、以下の 8 つのジャンルで記事を分類した。

1. 社会
2. 政治・経済
3. スポーツ・教育
4. 歴史・文化
5. 人物紹介
6. 読者投稿
7. 行事・告知
8. その他⁴

この分類を使って 2021 年 1 月から 6 月までのそれぞれのジャンルに該当する記事の数を調べた。その結果は表 2 に示したとおりであり、「社会」のジャンルの記事が全体の半分程度を占めており、次いで「スポーツ・教育」、「行事・告知」と続く。

表 2 2021 年 1 月～6 月分のジャンル別の記事の数

社会	政治・経済	スポーツ・教育	歴史・文化・自然	人物紹介	読者投稿	行事・告知	その他
598	66	222	120	102	40	174	4

経済の伝書鳩は 1983 年の発刊以降北見市周辺のオホーツクエリアに配布地域を拡大してきた。また、テレビ欄や時事通信社のニュースを掲載するなど紙面も変化してきた。2018 年には発刊から 10000 号を達成している。1992 年の帯広支店閉鎖については後述する。

³ 株式会社伝書鳩公式ホームページ (<https://denshobato.com/>) 参照

⁴ クイズ企画等が該当。

表 3 経済の伝書鳩の歴史

年	月	出来事
1983	5	株式会社伝書鳩の前身「株式会社大和商事」で宅配事業開始（創業）
	6	情報紙「経済の伝書鳩」発刊
1987	10	「経済の伝書鳩」日刊紙に変更スタート
1988	6	美幌町を配布エリアに拡張
1989	4	帯広支店開設
	5	津別町を配布エリアに拡張
1991	4	(株)伝書鳩に社名変更
1992	8	帯広支店閉鎖
1993	4	テレビ番組欄導入
1995	6	端野町を配布エリアに拡張
1996	7	時事通信社の配信受け「もぎたてホットニュース」掲載開始
1997	12	網走支店（大曲）開設
1998	4	網走市全戸宅配が正式にスタート
2001	6	置戸町を配布エリアに拡張
	7	訓子府町を配布エリアに拡張、留辺蘂町を配布エリアに拡張
2002	6	女満別町を宅配エリアに拡張
2003	5	「経済の伝書鳩」全紙面オールカラー化を実施
2005	7	常呂町を配布エリアに拡張
2006	5	(株)伝書鳩自社製作ホームページ本格稼働
	8	女満別町と合併の東藻琴村を配布エリアに拡張。大空町配布開始
2018	3	「経済の伝書鳩」10000号迎え4ページの特集を組む

株式会社伝書鳩公式ホームページより引用⁵

近年の紙媒体の衰退の兆しを受け、SNS や動画投稿サイト等の活用も 2020 年あたりから力を入れている。具体的な取り組みとしては、2021 年 8 月 6 日掲載「暑気払い、風鈴リオン」において、記事の写真にスマホをかざすとその関連の動画が即再生されるというように AR システムを取り入れたり、紙面上に QR コードを貼って動画投稿サイトに飛ばしたり⁶、といった工夫をしている。動画投稿サイト YouTube の公式チャンネルには地域の自然を扱ったものや網走市の記者会見の様子を撮影したものなど、多様なジャンルの動画が掲載されている。こういった取り組みの狙いについて、編集部の K さんは以下のように話す。

SNS に不慣れな記者もおり、一斉に地域情報を発信するようになっていないのは残念なところ。今年から AR を導入したことで、目新しさを感じてもらいつつ、いろんな世代をカバーしたいという狙いもあります。動画作成は記者に任せています

⁵ 株式会社伝書鳩公式ホームページ（https://denshobato.com/hato_profile/enkaku.php）より引用

⁶ 2021 年 6 月 17 日掲載「最大満月 夜に欠ける」、2021 年 5 月 27 日掲載「タンチョウのヒナ 2 羽すくすく」などで記事に関連した動画が YouTube でみられるようになっている。

が、動画編集をできる記者が一人しかいないので殆どそのものが中心になってやっているのが現状です。今後は記者の方でも企画して、番組的なものができればよいという夢も持っています。⁷

動画投稿サイト YouTube にアップロードされた動画の中で、最も再生回数が多いのは「許さない!!サケ釣り『場所取り杭』を撤去」というタイトルの動画である。網走市などの砂場ではサケ釣りの場所取り用杭が多くみられ、問題視されてきた。2020 年秋にオホーツク振興局と地元警察が撤去に乗り出し、この様子を動画にしたものが 168 万回の再生回数を記録している。また、「2021 年も許さない!! サケ釣りの『場所取り』」と題し、2021 年に行われた撤去の様子をアップロードし、77 万回再生を記録している。この動画について、編集部の K さんは以下のように話す。

関係者から場所取り杭の撤去をするので取材に来ないかというお話があり、そこで取材に行った記者がその様子を動画にしました。この動画が伸びまして、登録者数が増えて収益化が図れるようになってきたんですね。今後も力を入れていこうということで同様の動画を今年も出したところ、注目を集めたようです。他の地方でも同じ問題を抱えているようで、去年道の方で対策会議が開かれたときに、動画のことを聞かれたりだとか、今年もテレビ関係者からも話を聞かれたようで、かなり大きな流れになっているなど感じますね。⁸

インターネット上の取り組みを通して、地域住民の読者に楽しんでもらうだけでなく、地域の課題を他地域にも広めることにつながっていることが分かる。

⁷ 2021 年 10 月 29 日、経済の伝書鳩編集部 K さんへの聞き取りより

⁸ 2021 年 12 月 7 日、経済の伝書鳩編集部 K さんへの聞き取りより

3 地域文化の伝承

本章では、2章2節で分類したジャンルの中で、「歴史」「文化」「自然」に該当する記事について見ていく。この3つのジャンルの記事は大まかなテーマとしては「地域の文化」について取り上げたものであり、こういった話題を扱うことにはどういった狙いがあり、その結果どのような機能を果たしているのか考察する。

「文化」のジャンルに該当する記事の多くは地域で開かれる個展や作品展の情報について書かれたもの⁹である。

地域の自然に関する記事では、地域に生息する動物・植物について写真つきで掲載するものが多くみられる。住民が庭で育てた植物を紹介する記事や、住民が撮影した写真を使用する記事もある。2021年5月から10月まで11回にわたって連載された「進先生のきたみ昆虫採集ノート」は、NPO法人オホーツク自然・文化ネットワーク理事長が昆虫の写真とともに観察ポイントなどを紹介していくというものだった。経済の伝書鳩編集部によると、以前記者が動物の写真を撮って記事にする際に、専門的な知識がないと記事をかけないので理事長のもとに取材に行き、そこでたくさんの知識と写真を持っていることが分かり、今回の連載につながったとのことである。

地域の歴史に関する記事では、地域の史料についての話題や、歴史関係の施設についての話題に加え、さまざまな連載が企画されている。2021年冬に連載中の記事として「シリーズ北見市の文化財」「懐かし写真館」「オホーツクの句碑」がある。

「シリーズ北見市の文化財」は北見市内の記念碑や銅像の写真に掲載し、人物の生涯や建立の背景を紹介していく連載で、2021年11月18日掲載分で52回を迎えている。「懐かし写真館」は網走市内で数十年前に撮影された写真から、市内の変遷を紐解いていく連載で、2021年11月4日掲載分で594回を迎えており、長期にわたる連載となっている。「オホーツクの句碑」はオホーツク地域の句碑に記された碑文、俳句の背景や俳人の生涯を紹介する連載である。

地域の歴史や自然を扱う記事について、編集部のKさんは以下のように話す。

オホーツク地域は高い年齢層の方が多いので、懐かしい写真を掲載することでお茶の間の話題の一助になればという思いもあって、歴史に関する連載は多く手掛けてきました。調べてもわからないケースもありますが、掲載することで読者からここはこうだよという指摘が来て、その返答を踏まえてもう一回掲載するということもありまして、読者との双方向の連載という側面も持っています。読者からの写真やエピソードの提供、それを受けて歴史に関するものとは別の形での連載につながることもあり、ネタを得るための一つのツールにもなっています。やっている側としても

⁹ 2021年12月7日掲載「レザークラフト個展」、2021年10月1日掲載「美幌のシルバー写真クラブ作品展」など。

読まれているなど実感できる連載です。

プレゼント企画の中で読者に好きな記事についてアンケートをとったのですが、自然関係のネタは評価が高かったです。¹⁰

また、地域住民に面白いと思う記事について質問するとこのような話を聞くことができた。

最近興味を持ったのは地元の記念碑についての記事ですね。歴史を掘り起こしてくれるのが伝書鳩の面白さなのかもしれないですね。地域的话题を深く掘り下げて、みんなが忘れていたようなことでも探してくれるし。¹¹

地域メディアにおいては、「地域社会における様々な問題を取り上げ、都市と地方の世論を媒介するジャーナリズム機能」と同時に、「地域の伝統や文化などを記録し伝えることを通じて、地域の文化的アイデンティティの生成・維持」する機能も重要視されている（深澤, 2013:74）。

また、影山裕樹は、ローカルメディアに取り上げられる情報において「大事なのは、自分たちが住むこの土地が、広漠としたものではなく、豊かで楽しみに満ちたフィールドであると自覚するための媒介物になっているか、ということ」であると指摘する（影山, 2016:201）。

経済の伝書鳩は地域の歴史を積極的に取り上げることで高齢者層の話題に上がることを意図している。また、編集部の K さんが言うように、専門的な知識が不足していても、地域住民がそこを補完してくれることがあり、地域住民が知見を発揮できる記事という側面もある。普段見逃していたり、各々の住民が感じていたりする地域の魅力を掘り起こし、共有する機能を果たしていることが分かる。

¹⁰ 2021年12月7日、経済の伝書鳩編集部 K さんへの聞き取りより

¹¹ 2021年11月15日、北見市相内地区在住の女性への聞き取りより

4 地域報道の現状と行政とのかかわり方

本章では、2章2節で分類したジャンルの中で、「政治」「経済」「社会」に該当する記事から、地域報道について見ていく。この3つのジャンルの記事は、伝書鳩の記事の中で地域住民の生活に直結する部分の地域情報を扱ったものであり、こういった話題を扱うことにはどういった狙いがあり、その結果どのような機能を果たしているのか考察する。

4-1 地域報道

「社会」のジャンルに分類される記事で取り上げられる内容は幅広く、先述したように記事の数も最も多い分野の記事となっている。単純に毎日のニュースを掲載するだけではなく、重要なトピックを連載という形で紹介している。たとえば、2021年1月の連載「北見市高齢者保健福祉」では、北見市の介護保険事業計画について北見市の高齢化の現状を踏まえて解説している。

「経済」のジャンルに該当する記事では、財務局がまとめた経済情勢報告や商工会議所による景気動向調査の結果、網走管内の倒産発生状況などが取り上げられている。たとえば、2021年10月15日掲載「景況調査8期連続マイナス水準」では、網走商工会議所の2021年度・第1四半期（4～6月）の景況調査の結果から厳しい経済状況について伝えている。

地域の政治に関する記事では、議員の動きや選挙結果に加え、各市町議会での審議内容を開会から閉会まで詳細に記述している。たとえば、2021年6月28日掲載「不登校児のためのオンライン授業も」では北見市定例市議会一般質問で家庭での端末活用の施行が発表されたことについて、市議会議員からの質問も含めて書かれている。

編集部のKさんは北見市の課題として、高齢化が進んでいてインターネットが十分に活用されているとはいえない状況があるとし、速報性が高く地域情報がある程度知れるメディアは新聞だが、北見市内においても新聞のシェアというのは年々下がっているという¹²。実際に、表4で示した通り、北海道新聞旭川・北見版の購読数は年々減少している。こういった現状を踏まえ、地域報道について、編集部のKさんは以下のように話す。

この地方ではその中で地域の情報をどのように伝えられるのかと考えると、われわれの事業目的である、地域にいる誰もが地域のさまざまな情報を対等な立場で知ることができて、幸せに暮らすために役立つ紙面作りを、という部分に通じてきます。だれもが知ることができる情報、それが地域にくまなく配布されている、というのは有料の新聞では実現できないですからね。¹³

¹² 2020年6月24日、経済の伝書鳩編集部Kさんへの聞き取りより

¹³ 2020年6月24日、経済の伝書鳩編集部Kさんへの聞き取りより

表 4 5年間の北海道新聞旭川・北見版購読者数の変化

年	世帯数	朝刊部数	夕刊部数
2016	474,566	214,448	58,480
2017	473,262	209,374	55,111
2018	472,846	203,171	51,576
2019	471,449	196,817	47,292
2020	470,105	190,062	41,526

北海道新聞媒体資料 2017・2018・2019・2020・2021 より引用

インターネットを利用しないという地域住民に経済の伝書場の良いところについて聞くと、このような話を聞くことができた。

北見市には以前「北見新聞」がありましたが、倒産しましてね、だから現在地元新聞がないです。リアルタイムで地域の情報を得られるのは伝書鳩だけなので、なくなったら困ります。今後も攻めた記事を書き続けてくれることを期待します。¹⁴

編集部の K さんによると、市町議会についての記事を掲載する背景には、市町議会で新規事業が公にされることが多く、まちづくりの情報に関する最前線であるという認識に加え、議会で行われる質疑応答は大抵予定調和という感じなので一般市民には退屈に感じるということがあるという¹⁵。地域住民と市町議会について編集部の K さんは以下のように話す。

しかし、予算編成などの記事を出した場合ですと、市民から問い合わせが寄せられることがあり、市民生活に直結する助成金などへの関心が高いことがうかがえます。委員会の様子はネット配信されていないこともあり、スピーディーに市民にとって興味深い新しいものについてお伝えする使命があるという考えですね。¹⁶

また、地域住民によく読む記事について聞いた際に、伝書鳩は議会の内容を毎日連続で書いてくれていて、それをよく読むとしたうえで、以下のような話を聞くことができた。

私はよく議会傍聴に行くのですが、北海道新聞と比較してもより詳しく出ているのは伝書鳩です。道新は要点をまとめてくれますが、伝書鳩はかなり紙面をとって連載でも記事にしてくれるのでありがたいというか、議会傍聴に行かない人でも理解で

¹⁴ 2020年7月16日、北見市在住の男性への聞き取りより

¹⁵ 2021年12月7日、経済の伝書鳩編集部 K さんへの聞き取りより

¹⁶ 2021年12月7日、経済の伝書鳩編集部 K さんへの聞き取りより

きるというのはよいのかなと思います。¹⁷

全戸配布・日刊といった特徴を生かして地域住民の生活に役立つ情報を届けており、地元情報獲得の手段として地域住民にとって不可欠な役割を担っていることがうかがえる。中でも政治に関する記事では、住民にとって関心はあるけれども直接獲得しにくい情報を発信していることが分かる。次節では、地域社会に関する記事の中でも行政に関する話題を扱った記事を分析していく。

4-2 行政のチェック

経済の伝書鳩の「社会」のジャンルの記事の中では、行政に関する話題が多く取り上げられており、本節では行政に関する記事について見ていく。行政とのかかわり方を明らかにすることで、どのような機能を果たしているのかを考察する。

経済の伝書鳩と行政との関係性として、市役所・町役場がイベントの開催案内などの情報を広報メモ・プレスリリースといった形で伝書鳩に提供し、それをもとにした記事を普段から掲載していることがあげられる。また、行政からの広告依頼もある。

行政の事業を連載で取り上げた例として 2020 年 12 月の「置戸まちづくり移動町長室」¹⁸、2021 年 4 月の「連載・再スタートの『訓子府町まちづくり推進会議』」¹⁹などがあり、これらの連載では会議の様子を詳細に記述し、訓子府町・置戸町におけるまちづくりへの町民参加を取り上げている。

行政からの情報提供について、編集部の K さんは伝書鳩の日刊フリーペーパーという部分が強みになってくるとし、以下のように話す。

たとえば北見市で言いますと、市からの広報は月 1 回なんです。ホームページ上でも情報発信していますが、全員見るとは限らないと。そういった時に、住民にくまなく情報がいきわたるという点で、課題を解決する手段の一つとして活用されると実感しています。²⁰

配布地域に含まれる各市町に調査を行った結果、「経済の伝書鳩が地域に貢献してくれた事例」という質問に対し、美幌町町民生活部からは「広報誌の発行が月に 1 度であるため、

¹⁷ 2021 年 11 月 15 日、北見市東相内地区在住の女性への聞き取りより

¹⁸ 置戸町が開催した「まちづくり移動町長室」で話し合われた内容を 2020 年 12 月 3 日・4 日・10 日・11 日の 4 回にわたって連載。

¹⁹ 任期を終えた訓子府町のまちづくり推進会議について、会議の位置づけやありかたを委員の意見も含めて検証した連載で、2021 年 4 月 22 日・26 日・30 日の 3 回掲載された。

²⁰ 2020 年 6 月 24 日、経済の伝書鳩編集部 K さんへの聞き取りより

短期間で周知を行う必要がある場合などに、記事にさせていただいたり、チラシの折込により周知を行うことができる。」という回答が寄せられた²¹。また、「北見市（役所）と経済の伝書鳩のかかわり方」という質問に対し、北見市の「市民の声をきく課」から「多くの市民が目にする媒体であるので、市からの重要なお知らせを広告として掲載することもあります。」という回答が寄せられた²²。

地域住民からも、広報は情報が遅れているが、伝書鳩はリアルタイムで情報提供してくれるので助かっているという話があった²³。

行政からの情報提供にもとづいて住民に役立つ情報発信をする一方で、行政に対する批判的な記事も見受けられる。

2020年12月3日掲載「網走市 増える家庭ごみ」では、網走市の家庭ごみの排出量が増加しているという話題から、「生ゴミの100%堆肥化」を目指す網走市の計画が遅れていることを指摘している。その後12月4日から連載「瀬戸際？網走ごみ処分場」をスタートさせ、堆肥化が遅れていることから、埋め立て処分場が予定よりも早く満杯になる、という問題を解説し、市議会でも問題が表面化したことを取り上げている。喫緊の課題であるということ強調し、非現実的な計画は見直すべきだという主張を示している。

2021年3月から4月に連載された「網走市役所 駐車場は誰のもの？」では、読者から「網走市役所本庁舎の駐車場に、水谷洋一市長の自家用車が長期間、駐車している」という情報が寄せられ、網走市市役所や市関連の公共施設駐車場に、職員の自家用車を駐車することを原則禁止にしていることから、「市役所駐車場は誰のものなのか？」という素朴な疑問について調べている。水谷市長への取材から、問題の背景を浮き彫りにしたうえで、今後は改めていきたいという市長の言葉を掲載している。網走市民からの賛否両論の反応も取り上げている。

また、網走市の新型コロナウイルス関連の対応において、厳しい指摘をする記事が見受けられる。

2020年7月18日掲載「網走市内で初のコロナ感染者」に関連し、網走市の会見の様子を伝書鳩網走支店のYouTubeチャンネルで公開した。その後7月22日から28日にかけて、4回にわたって連載「混乱する市民」が掲載された。この連載では、水谷市長の会見における矛盾を指摘し、網走市の対策についても疑問を呈している。

2020年11月の「沈黙の網走市役所」という連載では、2020年10月に開催されたスポーツ体験イベントの講師が新型コロナウイルスに感染していたことが開催後に公表されたのにもかかわらず、イベント主催者である網走市役所から市民への事実報告がないということの問題視したものである。市の幹部職員から「保健所が何も言ってこないから報告していない」という理由説明があったが、保健所への取材を通してその理由の根拠が乏しいこと

²¹ 2021年11月10日、美幌町町民生活部のメール回答より

²² 2020年8月13日、北見市市民の声を聞く課のメール回答より

²³ 2021年11月16日、北見市在住の男性への聞き取りより

を主張している。また、市役所の対応を問題視している市議会議員の見解についても書かれている。その後、11月27日掲載「コロナに講師感染、文書で報告」の中で網走市教育委員会がイベントに参加した市民に文書で報告したこと、12月4日掲載「水谷市長、動画で謝罪」の中で市民への報告が遅れたことに対して水谷市長が動画で謝罪したことを取り上げている。

また、2020年6月1日掲載の「オンライン申請するも郵送で申請書届く」という記事では特別定額支給金のオンライン申請と郵送による申請により、二重支払いが発生することへの懸念について書かれており、北見市の行政に対して批判的な内容がみられる。

行政に対する批判的な記事について、編集部のKさんは以下のように話す。

記者の裁量による部分が大きく、常にトップニュースに掲載するというわけではないのですが、行政に対する新聞社顔負けの厳しい批判記事なども多く掲載してきました。商業紙面なので、誰かを悪者にして書くというのは本来厳しい部分ではあり、どうしても批判的な記事を書く対象は行政になるんですね。かつて伝書鳩は批判的な記事が載っていて読みごたえがあるというような声もあり、地域の話題と厳しい指摘の両輪でやってきましたが、ご時世的にも敵を作るような記事に対して反省の思いもあり、明るい話題をお届けしようと考えているところですね。²⁴

また、網走市行政への批判的な記事が多くみられることに対しては以下のように話す。

事実に基づいた記事なので基本的には問題はないと考えていますが、コロナに関する網走市長の記事については市長を個人攻撃しすぎたなど反省しています。

各地域に記者はいますが、網走の方の記者は比較的地域に根差した記者なので、地元の方たちとの交流も深く、いろんな話を聞く機会があって、その中で得た市に対する問題提起を記事にしていくということが多いと思います。ここ数年はあまりないですが、以前は北見市政に対してもかなり突っ込んだ記事を書いていた経緯があるので、今は網走市への記事が目立っていますが、行政に関する問題点があれば、紙面としては取り上げていくということに変わりはないので。²⁵

以上のように、経済の伝書鳩は各市町から地域住民への情報伝達を迅速かつくまなく行えるメディアとして認識されており、信頼され活用されるような関係性がみられる。一方で、地域情報の担い手として地域住民に寄り添った立場から行政を見つめ、不始末については糾弾する姿勢が見て取れるような紙面を実現している。

高知新聞記者の依光隆明は紙面作りにおいて「県民に立脚点を置く」ことを意識するとし、

²⁴ 2020年8月12日、経済の伝書鳩編集部Kさんへの聞き取りより

²⁵ 2021年10月29日、経済の伝書鳩編集部Kさんへの聞き取りより

地方紙と地元警察の強固な関係がある中で、圧力がかかりながらも県警の不祥事を記事にした事例をあげている。「血が出そうなくらい書き手の思いが入っていて、書かれる方の思いも入っている」記事を書くには「労力もかかるし、その割に結構批判も受けたりとか、返り血も浴びる。でもそうやって労力をかけて、試行錯誤しながら一生懸命につくるのが新聞だと思っています。」という（依光, 2008:57-67）。

また、深澤弘樹は「取材者、制作者が絶対的な他者として物事を客観的に眺めるのではなく、自らも困難を引き受け、我が身として報道する、あるいは、徹底的に当事者に寄り添う姿勢」が「当事者性」であるとし、当事者性の発揮を最も求められているのが地域メディアであるという（深澤, 2013:87）。影山裕樹は、地域の新しい価値を提示し、独自性を維持するためには、「既存のマスメディアのように対象と距離を保って取材し、両論併記で公平性を保とうとするのでは不十分だ。メディアの担い手自らが対象とゼロ距離で関わり、社会課題解決や魅力創出の担い手として現場に入ってほしい。」とする（影山, 2018:152）。

行政に関する記事の中でも、網走市行政に対する批判的記事においては市民との交流を通して声を拾い上げて記事にする様子が見られ、地域メディアにおいて重要な当事者性を発揮したものであるといえる。

5 経済の伝書鳩と地域住民のかかわり

経済の伝書鳩は地域住民との多様なかかわり方を生かした記事を多く掲載している。本章では、読者とのつながりがより強く見られる記事を取り上げ、地域住民に関する話題を扱うことの狙いと、地域住民にとっての経済の伝書鳩の存在意義について考察する。

5-1 読者としての地域住民

本節では、読者からの経済の伝書鳩への要望・質問や取材依頼を通じたかかわり方、日常生活の中での経済の伝書鳩の存在についてまとめていく。

経済の伝書鳩の中にはサブタイトルに「教えてください」「調べてみました」と記されている記事があり、これは読者からの伝書鳩に寄せられた質問を受けて記者が調べて記事にするというものである。サブタイトルが「調べてみました」になっている2020年11月26日掲載の記事「来庁する市民は何人？」²⁶では冒頭で以下のように書かれている。

「網走市役所の新庁舎建設地は、中心市街地にある旧金市館ビル跡地周辺に決まった。「まちの顔」ともなりうる新庁舎建設に伴い、本紙読者から『ところで市役所を訪れる市民は何人いるの?』といった素朴な質問が寄せられた。新庁舎建設に関して取材を続ける記者にとって、『庁舎を訪れる市民の数』という視点は恥ずかしながら欠けていた。読者からの質問に気づかされ、調べてみた。」

このように、一方的に読者からの質問に答えるだけでなく、逆に読者からの質問によって記者が新たな視点を獲得できるというようなこともあると書かれている。また、2021年9月21日掲載の「初挑戦のスイカ『甘くて最高!』」では取材先の女性から記者がスイカをふるまわれたということが書かれており、地域住民と記者の近い距離感が見て取れる。

編集部のKさんによると、家で育てている植物や飼っているペットに関する情報提供が多々あるという。そういったものを取り上げた記事ははっきり言って「どうでもいい話」だが、それを見てほっこりできるということもあり、本当に隣の家で起きているような話を、当たり前に取り上げるというのは実は大事なことなのだという²⁷。

編集部のKさんは読者からの要望・意見について以下のように話す。

たとえば読者プレゼントの時に、紙面に対する意見・要望などをいただくことがあります。なかなか外出できないので外の様子を伝えてほしいとか、すぐにできるもの

²⁶ 2020年3月から9月までの網走市庁舎への来庁者数について調べ、掲載した記事。

²⁷ 2020年6月24日、経済の伝書鳩編集部Kさんへの聞き取りより

について、それが有効であるなら、意見を取り入れるようにしています。読者からの意見もありますけど、お叱りの電話を結構いただくんですよ。伝書鳩がまだ届いていないんだけどというような、読んでいただいているのは大変ありがたいんですが。待っていただいているということは私共の事業も必要とされてるんだなと。²⁸

留辺薬まちづくり協議会の委員をしているという地域住民は、経済の伝書鳩の影響について以下のように話す。

地元の高齢者の間では共通の話題になっていて「この前あれ載ってたよね」と言ったら大体経済の伝書鳩のことですよ。実際お年寄りの方も配られるのを待っていて、手渡しで受け取ってその場で開いて見ている人もいますよ。留辺薬の循環バスについての記事が載ると、バスの経路どうなってるんだとか、直接僕が言われることがありますよ。影響力がすごいんですよ。²⁹

別の地域住民は以下のように話す。

街づくりで花を植えるとか、あずまやをみんなで寄付して建設するから取材に来てくださいとかお願いすると飛んできてくれます。身近なことが載っているから周りの人との話題になりますし、知っている人の名前が紙面に載るので身近に感じますね。お悔やみ欄はよく見ますね。夕方に届いたときに、当日の夜がお通夜であっても間に合っていけるので。³⁰

お悔やみ広告は亡くなった方の顔写真が掲載されるという伝書鳩の特徴的な広告である。編集部の K さんによると、故人の情報を正確に掲載するためにたいていの場合には遺族の家で葬儀広告の原稿を作成するという³¹。お悔やみ広告が役立っているという意見は複数の地域住民から得られた。

津別町役場住民企画課からも、「経済の伝書鳩が地域に貢献してくれたと感じる事例」という質問に対して「津別町や他市町の情報を知ること、町民の共通の話題になり、会話のきっかけになりやすい」という回答が寄せられた³²。また北見市出身の方から、知り合いの広告会社の方が「イベント情報を掲載するなら新聞よりも経済の伝書鳩のほうが良い」といっていた、という情報も得ることができた。

ジャーナリストのむのたけじは、ジャーナリズムを「民衆生活の朝夕の相談相手」と捉え

²⁸ 2020年6月24日、経済の伝書鳩編集部 K さんへの聞き取りより

²⁹ 2021年11月15日、留辺薬自治区在住の男性への聞き取りより

³⁰ 2021年11月15日、北見市東相内地区在住の女性への聞き取りより

³¹ 2020年8月12日、経済の伝書鳩編集部 K さんへの聞き取りより

³² 2021年11月26日、津別町役場住民企画課のメール回答より

ている（むの,2011:6）。また、松江健介は製作者からの一方通行のメディアではなく誌面を介したコミュニケーションツールにもなりうるということが現代におけるフリーペーパーの特徴なのではないか（松江,2013:410）と考えている。

経済の伝書鳩では読者からの質問を通して、地域住民に寄り添った視点から紙面作りができるようになることがある。また、読者に話題を提供してもらって書くテーマは他のメディアでは扱われなような、ニュース性がない小さな話題だが、それ故に地域住民にとってなじみ深い紙面を実現し、住民間のコミュニケーションにつながっており、行政もそれを認識している。高い広告効果も実感されている。

5-2 地域の若年層とのかかわり

前節では地域住民とのかかわり方について明らかにしたが、本節では地域住民の中でも若年層を取り上げた記事（主に「スポーツ」「教育」のジャンル）から地域の子供たちや子育て世代とのかかわりについて見ていき、若年層を取り上げる意義について考察する。

経済の伝書鳩のスポーツ関連の記事では、地域で行われた大会結果やスポーツ団体の活動を掲載するだけでなく、オホーツク地域出身の全国で活躍するスポーツ選手についても扱っている。例えば、2021年7月9日掲載「久保恒造選手 パラリンピック内定」では美幌町出身の車いす陸上の選手がパラリンピック日本代表に選出されたことを取り上げている。また、連載「スポーツ大好き」ではスポーツに打ち込む地域の小学生を取り上げている。

教育関連の記事では地域内の学校の取り組みや、課題研究発表会や入学式などの行事の様子を掲載している³³。

公務員試験や検定合格、コンクール入賞など、地域の学生の活躍を多く取り上げていることも特徴の一つである。例えば、美幌北中学校吹奏楽部生徒のコンクール入賞を取り上げた2021年6月8日掲載「ユーフォニアムで活躍」、北見工業高校建設科の生徒が国家公務員試験に合格したことを取り上げた2021年3月17日掲載「国家公務員試験に合格」などがある。

学生の活躍や部活動などの話題を扱う記事について地域の教育関係者は以下のように話す。

うちの生徒なんかはいわゆる中学時代から言うと自尊感情があまり高くなかった生徒たちが多いので、そういう意味で記事になることで自分自身を客観視して見られるって意味での意味づけ・価値づけができるっていうのはありがたいですね。自分が何気なくやったことがそういう風に評価されることなんだなど。だから学校としては本人が嫌がらない限り積極的に経済の伝書鳩の取材の場をセッティ

³³ 2021年4月7日掲載「1678人が新たな学校生活スタート」など。

ングしています。³⁴

また、教育系の記事を掲載する狙いについて、編集部の K さんは以下のように話す。

以前から幼児から高校生までの子供専用のコーナーだとか、各種大会で活躍した学生を紙面で扱ってきたこともありますから、子育てをしている 3,40 代くらいの読者層はそれなりには継続してきたと思います。結婚出産を経て子育てをしている記者が今いるんですが、その記者のおかげで、より若い世代にピタッと会うような子育ての記事が増えてきていまして、それにつれて 2,30 代くらいの子育て世代の読者層も増えているのではないかという実感がありますね。³⁵

深澤弘樹は地域メディアの社会的機能として「地域社会の統合性の推進」を挙げ、地域住民の地域への帰属意識が薄らいでいる中で、住民の愛着を確保することが必要だと述べている（深澤, 2013:78）。

教育関連の記事を通して、若い読者層を獲得するとともに、地域の子供たちの取り組み・活躍を積極的に紹介することで、地域への帰属意識を高められる可能性も生み出している。次節では、若年層も含めた地域住民の紹介記事について分析する。

5-3 地域住民の紹介

本節では「人物紹介」に分類される記事について見ていく。そこから、地域住民を紙面上で紹介する狙いと人物紹介の記事が果たしている機能について考察する。

人物紹介の記事では、さまざまなくくりを設け、幅広い年代や属性の地域住民を連載企画で取り上げている。具体的な連載の例としては、地域の役場や企業に勤める新社会人の連載「はりきり社会人 1 年生」、料理人、大工、鉄筋工などの地域の職人の連載「連載 北見の匠」、地域で活躍する女性の連載「きらり!レディース」、地域外から赴任してきた新住民の連載「新任ですよろしく」などが挙げられる。

編集部の K さんによると、新入社員を紹介する連載では記者がエリアの中の取材先で主に訪問しているところや、営業部が営業をかけている会社の新入社員を紹介してもらうことが多いという。また、子どもを紹介する連載コーナーでは、親からうちの子どもをぜひ取り上げてほしいという依頼が来ることも多く、それをきっかけにしてその子どもの友達のお母さんから取材依頼が寄せられるというような形で広がっていくケースもあると

³⁴ 2021 年 11 月 15 日、北見市の公立高校関係者の男性への聞き取りより

³⁵ 2021 年 10 月 29 日、経済の伝書鳩編集部 K さんへの聞き取りより

いう³⁶。

また、人物紹介の記事を多く掲載する狙いについては以下のように話す。

紙面に顔が出ているとより注目を集めやすいということがまず一点あるんですね。そして紙面を通じて会話が生まれることを意識してまして、近所の人、先生、先輩など身近な人の笑顔の写真が多く出ていることで、手に取ってもらい、紙面を読んでもらい、その間に広告にも目を止めてもらう、そういうことを期待しているんですよ。うれしいことにですね、プライベートで出かけた先なんかで、伝書鳩についての話題を耳にすることが結構あるんですよ。新任の人を紹介する連載では、今度来た人はどういう人なんだろうとか、新任の人が取引先に行ったときに紹介の記事が話題にあがって会話が弾みやすくなったりだとか、この地域に来てよかったなとか思ってもらえたらよいなと思います。³⁷

地域住民からも知人が取り上げられていると目に付くという話があった³⁸。

制作側としては写真を掲載することで紙面に関心を持ってもらうきっかけになる記事として活用している。地域の人々の魅力を引き出し、地域の人々に伝えることで、掲載された人と同じ立場の人が共感できる、新住民の自己紹介の場となり地域になじみやすくなるなどの可能性も期待でき、地域の人々同士にとって身近に感じられる記事を提供している。次節では、読者が直接紙面に参加できる読者投稿について分析していく。

5-4 読者投稿

本節では読者投稿のコーナー、主に「私は言いたい」について見ていく。

さまざまな読者投稿のコーナーを設け、紙面上への読者の参加を促していることも経済の伝書鳩の特徴の一つである。具体的には、読者が地域住民とのかかわりや生活の中で抱いた感謝を投稿する「今日のありがとう」、読者が自作のレシピを投稿する「プラスワンレシピ」、ペットを写真付きで紹介する「かわいっしょ」などが挙げられる。2021年1月から11月までの掲載数は「今日のありがとう」が18回、「プラスワンレシピ」が10回、「かわいっしょ」が21回というペースである。「かわいっしょ」は累計800回を超えている。

投稿コーナーの中でも行政に対する批判、家庭内の問題など読者の意見がストレートに掲載されるのが「私は言いたい」である。

編集部のKさんによると、記者目線でもなかなか見つけられない本当に細かいことが「私

³⁶ 2020年8月12日、経済の伝書鳩編集部Kさんへの聞き取りより

³⁷ 2021年10月29日、経済の伝書鳩編集部Kさんへの聞き取りより

³⁸ 2021年11月15日、相内地区在住の女性への聞き取りより

は言いたい」で読者の目に触れるということで、最初はキラーコンテンツとして始めた。創刊当初はとにかく浸透させなくてはいけないということもあり、中には誹謗中傷交じりの投稿もそのまま掲載し、後ほど火消しに走るといったようなこともあった。投稿に対して反論、またそれに対する反論、横からの援護射撃みたいな、今でいう炎上ということもよくあったようだという³⁹。

現在の「私は言いたい」について編集部の K さんは以下のように話す。

現在では編集部の方で原稿をあらかじめチェックして、文章の手直しをしたうえでの掲載となりますので炎上ということはないんですが、投稿された意見に対して賛同しますみたいな声が続いて今でも盛り上がりを見せることはありますね。今でも良いことも悪いことも含めて読者の方が言いたいことをいうコーナーというのは変わらないですが。⁴⁰

「私は言いたい」の常連の投稿者 2 人から話を聞くことができた。1 人目は、主に北見市政に関する投稿を寄せている北見市在住の Y.K さん（80 代男性）で、創刊当初から投稿を続けている。普段から北見市に自腹で独自の資料請求をするなど、北見市政に対して強い関心を持ち学んでいる。

投稿者 Y.K さんからは投稿内容、なぜ投稿するのかということについて以下のような話を聞くことができた。

投稿を始めて 30 年以上たちます。私は市議会・委員会をほとんど傍聴していますので、議員の行動・発言などをメモして投稿しています。

北見市の政治をよくするためには市議会を改革しなくてはならないという思いがあります。しかし北見市議会の傍聴者はほとんどおらず、周りの人を誘ってもなかなか来てくれる人がいません。誰かが議会の内容を伝える役割を担わなくてはならないと思って投稿しています。ほかの投稿者の投稿もよく読みますが、皆さんよく勉強されているなど感じますね。⁴¹

表 5 で示したように、2020 年 11 月から 2021 年 10 月までで「私は言いたい」は 30 回掲載されたが、そのうち 5 件（2020 年 11 月 28 日、2021 年 1 月 6 日、3 月 26 日、5 月 3 日、9 月 7 日）が常呂・能取風力発電事業に関する話題になっている。このことについて、編集部の K さんは以下のように話す。

³⁹ 2020 年 8 月 12 日、経済の伝書鳩編集部 K さんへの聞き取りより

⁴⁰ 2020 年 8 月 12 日、経済の伝書鳩編集部 K さんへの聞き取りより

⁴¹ 2020 年 7 月 16 日、投稿者 Y.K さんへの聞き取りより

北見市全体でみれば困る人は少ないのかもしれませんが、建設地周辺の住民の反応としては反対という声が強く、一地域の問題として捉えていてよいのか、という疑問がありました。一読者の意見として困っている人もいるということは知らせるべきではないのかということで読者投稿という形での掲載に至りました。⁴²

風力発電事業に関する投稿のうち、4件（3月26日以外）は同じ投稿者によるもので、その方が2人目に話を聞いた投稿者Nさん（80代女性）である。北見市在住で主に行政や住民運動に関する投稿を寄せており、こちらも創刊当初から投稿を続けている。

風力発電事業に関する投稿について、Nさんから以下のような話を聞くことができた。

2020年9月に北見市議会の傍聴に行った際に議員の質問で常呂開発について知りました。住民のほとんどはその事実を知らなかったのもので、このまま計画が進められることに危機感を覚えました。一人でも多くの住民にその事実を伝えようということで「私は言いたい」に投稿し、勉強会などにも参加しました。2021年1月に市民への納得できる説明を要望する投稿を出し、その甲斐あってか風力発電事業を手掛ける会社による説明会が開かれました。説明会で不満が残る部分があったので、それについてまた投稿しました。⁴³

また、常呂開発についての1回目の投稿は2020年の10月1日で、その投稿を見た市議会議員から連絡が来て、懇談の機会を設けてもらい、その後も必要に応じて連絡を取り合う関係が構築されたという。Nさんが投稿していることを知っている地域住民からも感想を言われるなど、反響があったようだ⁴⁴。

投稿する意義や想いについても、以下のような話を聞くことができた。

「私は言いたい」というタイトルは背中を押されるような気がして、とても良いですよ。

投稿によって行政の姿勢を変えることは難しいですが、投稿を読んだ住民が関心を持ち、動くことで変えていくことができるのではないかと考えています。住民が意見表明できる場として「私は言いたい」は有効であり、住民の意見を代表して投稿を続けることが自分の使命だと感じています。⁴⁵

別の地域住民の方にも、Nさんと同じ場で話を聞くことができた。その方は以前から俳句

⁴² 2021年10月29日、経済の伝書鳩編集部Kさんへの聞き取りより

⁴³ 2021年11月15日、投稿者Nさんへの聞き取りより

⁴⁴ 2021年12月1日、投稿者Nさんのメール回答より

⁴⁵ 2021年11月15日、投稿者Nさんへの聞き取りより

のコーナーに毎月投稿していた方で、Nさんの影響を受け、「私は言いたい」にも初めて投稿したという⁴⁶。

表5 2020年11月24日から2021年10月5日までの期間で掲載された「私は言いたい」

日付	ペンネーム	タイトル
2020/11/24	47歳男性	病院受付の態度の悪さが目に余る
11/28	匿名希望	エコの名のもとでの森林伐採
11/30	87歳女性	小公園のイルミネーション
12/4	匿名希望	納得できません
12/10	一受付	少しだけでもわかってください
12/11	一市民	お釣りを返してください
12/17	玉ねぎ大好き主婦	元気なうちに...
2021/1/6	匿名希望	責任ある説明を
1/7	一市民	見られないものほど見てみたい
1/28	ステイホーム	正しい情報を的確に伝えて
2/1	北見市民	北見市役所新庁舎について
3/16	年金生活の70代女性	楽しみにしていたレストランがない
3/22	トムキヤット	待ちに待ったニュース
3/26	山の代弁者	小さな山の叫び
3/30	護る人	首長及び議員皆様へ
4/7	40代、主婦	ぜひ再検討を...
4/12	60代女性市民	トイレの改善を
4/30	永井吾郷	報道されないこともある
5/3	一市民	常呂の風力発電の勉強会に参加して
5/26	リダイアルで指が痛い男	仏作って...
6/9	ミッチー	五輪事前合宿辞退を
6/30	役所の仕事を盲信していた老人より	ミスで損していませんか？
7/14	津別町民	ワクチン接種会場の改善を
8/16	北見のアマビエ	コロナに打ち勝つために！
8/31	匿名希望	ある町内会の役員さんへ
9/2	網走市の女性「C.O」	網走市のごみ問題
9/7	北見一市民	北見市は再考を...
9/9	渋柿	土農工商
9/16	女性	一人ひとりがコロナの情報収集を
10/5	スマホ高校生にびっくりしたおばさんより	ながら運転は危険

投稿者について、編集部のKさんは以下のように話す。

限りなく住民寄りでありながら、政治だけじゃなくいろいろな話題を提供してくれる方が何人かいらっしゃいます。そういった方々の存在がうちの紙面を盛り上げる

⁴⁶ 2021年11月15日、常呂自治区在住の女性への聞き取りより

のに一役も二役も買ってくださったことは間違いなく、大変ありがたい存在ですね。そして投稿者の方も発表の場がなかなかないじゃないですか。自分の声を上げる場が。今でこそネットがありますけど。そういった熱い思いを発表する場としてうちの紙面を選んでいただくとともに地域情報の一助を担うべく本当にお世話になった方々ですね。お互いの要望がちょうど合致する形でともに歩んできたんだと思います。47

影山裕樹は、読者参加型コンテンツについて、ローカルメディアにとっては読者と作り手の信頼関係を図るバロメーターでもあるという。下手をするとつまらなくなるが、うまくハマればそれがメディアを駆動するエンジンにもなる（影山, 2018:228）。

むのたけじは、メディア産業に求めることとして、読者や視聴者を客ではなく、メディアの仲間として扱い、その人々とともにニュースを社会に提供するという姿勢が重要であるという（河邑, 2017:98）。

経済の伝書鳩は投稿コーナー「私は言いたい」を設けることで住民の意見形成に寄与している。意見を表明する場が紙面に存在することで、地域住民がジャーナリズムの一端を担える機会も生み出している。また、読者が地域について考えたこと、伝えたいことをそのまま投稿できる、自己表現の場として機能している。これが「私たちみんなの新聞」（久保, 2010:89）という意識を形作っていると考えられる。

5-5 小括

本章では、経済の伝書鳩と地域住民のかかわり方について見てきた。経済の伝書鳩は読者からの情報提供や質問・意見を紙面に反映させており、双方向の紙面づくりを実現している。人物紹介の記事は読者の注目を集める記事として活用されている。

「経済の伝書鳩に期待すること」という質問に対して、津別町町民広報課から「町の広報紙に掲載する事項は、『行政施策の推進状況等、町政の動向に関する事項』、『町政に対する民意の反映に関する事項』、『各種法令等の町民への周知に関する事項』と決まっているため、町が掲載できない部分、例えば個人の活躍などそういった部分での情報発信を今後も期待しています。」という回答が寄せられた⁴⁸。地域の若年層を扱った記事は行政が発信できない部分を補完する機能も持っていることが分かる。

投稿コーナーを設けることで読者の紙面への参加を促進し、住民視点の地域の情報発信を可能にしている。

47 2020年8月12日、経済の伝書鳩編集部Kさんへの聞き取りより

48 2021年11月26日、津別町役場住民企画課のメール回答より

6 地域における役割と地域貢献

6-1 地域密着型フリーペーパーの地域貢献の事例

久保まり子によると、地域の課題を共有し、解決に向けて実行の輪を広げていくのは主に行政の役割だが、一方通行で堅い話になるのを避けるために、住民目線を織り込んで生活者が親しみやすく共感できる形にしていくうえでフリーペーパーが地域に貢献できるという。1章で触れたように、久保は、フリーペーパーの地域貢献活動を「地域の課題共有・解決型」「地域経済・貢献型」「地域資産（特産）・再確認型」の3つのパターンにわけ、「地域の課題共有・解決型」では「リビングむさしの」の事例、「地域貢献・経済型」では「リビング和歌山」の事例、「地域資産（特産）・再確認型」では「リビングさいたま」の事例を挙げている（久保, 2013:402）⁴⁹。

こういったことを踏まえて、本章では、具体的な例として

- (1)2020年より世界的に社会情勢に急激な変化をもたらした、新型コロナウイルスについての報道
 - (2)2020年に発表された北海道の高校配置計画に2023年度募集停止案が盛り込まれ、廃校の危機を迎えた北見市立留辺蘂高校についての報道
- の2つを取り上げ、地域の公共的な課題に対して経済の伝書鳩がどのように取り組んできたのかを見ていく。

6-2 新型コロナウイルス関連の報道

平野隆則・後藤千晴は、和歌山県のローカルニュースサイト「和歌山経済新聞」において、2020年のページ閲覧回数が和歌山県民のユーザーによって大きく底上げされたことを指摘し、新型コロナウイルスをうけて地元住民にとって需要が高まった一例を示している（平野・後藤, 2021）。

これを踏まえて、本節では、新型コロナウイルス関連の報道を通して経済の伝書鳩が地域住民の生活にどのように役立ってきたのかを明らかにする。

経済の伝書鳩はコロナ関連の多様な話題を扱っている。道や市町、教育委員会の発表に基

⁴⁹ 久保はほかにも、「地域の課題共有・解決型」として「リビングかごしま」が鹿児島市と連携して、市民のために火山灰を詰める袋を配布し、その袋を市が回収に来るという取り組みをした事例、「地域経済・貢献型」として「リビング新聞」がオリジナルの記念日を設けて地域色豊かな観光プランを提案し、新規マーケットを掘り起こした事例、「地域資産・再確認型」として「リビングむさしの」が市の観光推進機構とコラボして駅前観光掲示板を作った事例を挙げている。

づく感染者やクラスター発生の情報に加え、地域内の病院が実践している対策や取り組みなども取り上げている。中でもワクチンについては、事業費についての議会の動向、各自治体の準備状況、集団接種会場・問い合わせセンターの設置、網走管内へのワクチン到着、接種の実演訓練の実施、集団接種スタート、といったような詳細な動きを逐一取り上げ、事業の遅れや受付電話のかけ間違い、予約忘れなどの問題が見受けられた際には読者に注意喚起をしている。

感染者やクラスターに関する報道について編集部の K さんは以下のように話す。

当然正式な発表に基づいた報道をしているんですけども、個人情報を守ることは大切なので、北海道の発表で特定の店舗が出されている場合でも店名を伏せて報道するというようにはしてきました。ほかのメディアでは店名を出して報道していますが、われわれはフリーペーパーという性格上、広告オーナーあつての紙面ですから、店名を避けて報道しています。ただ例外がありまして、コロナ感染者が出てしまった企業側が主体となって公表している場合は出したケースはあります。⁵⁰

先述した通り、コロナ関連の報道においても、行政の施策や対応についての批判的な記事、住民が困っているという声を拾い上げた記事が見受けられる。2021年5月26日掲載「北見市の予約対応は？」では、WEB上でのワクチン接種予約ができない、サイトにアクセスできないという問題が発生したことをうけ、高齢者の北見市民の不満や意見を掲載している。同日掲載の「私は言いたい」でも同じ問題について書かれている。その一方で、コロナ関連の施策についての地域住民からの好意的な意見についても記事にしている。2021年2月21日掲載「網走市の補助が好評」では、網走市による市内店舗の感染症対策の工事・備品調達にかかる費用を補助する制度が好評であると書かれており、2021年7月14日掲載「直前の案内通知が好評」では北見市による接種予定日の前日の通知サービスについて「安心して当日会場に行けた」という声を取り上げて記事にしている。

また、情報を届けるだけでなく、生活の変化について読者の声を聞き、連載で取り上げている。2021年1月の「コロナ禍 10代の声」という連載では、コロナ禍でどんな生活の変化があったか、6人の学生の声を取り上げている。また、2020年12月4日掲載「北見市民の声は」では、コロナ禍での年末年始の過ごし方について北見市民の声を取り上げている。ほかにも2回撮取したからもうマスクはしなくていいのか、コロナ禍での確定申告はどうすればいいのか、などの地域住民の疑問を解消する記事を掲載している。編集部の K さんによると、読者から結構コロナに関する質問が来るので、答えられる部分については答えつつ、専門の機関を紹介するという対応をとっているという⁵¹。

地域住民によると、商業新聞を購読している人が少ないこともあり、北見市内の感染者の

⁵⁰ 2021年10月29日、経済の伝書鳩編集部 K さんへの聞き取りより

⁵¹ 2021年10月29日、経済の伝書鳩編集部 K さんへの聞き取りより

発生状況、入院状況、ホテルでの待機状況などコロナに関して事細かく報道してくれる伝書鳩は大いに役立っているという。また、北見市役所が伝書鳩の広告を活用し、緊急事態宣言の情報とそれらに関連する課題・注意などを詳細に掲載してくれるので、他の市町村よりも北見市民はいち早く周知できるという⁵²。

他にもコロナ関連の記事を見ていくと、2020年12月10日掲載の「私は言いたい」の中で、医療従事者の心理的負担が吐露された投稿が掲載されており、2020年12月24日掲載「医療従事者“心の声”に大きな反響」という記事の中でその投稿に対して読者から大きな反響が寄せられたことが書かれている。

また、2020年11月14日掲載『無責任な噂』拡散させないで』では、骨折して店を休んでいたのに、コロナ感染が原因だという噂を流されたという北見市内のバーの店主の怒りを記事にし、デマの拡散に対する注意喚起を行っている。編集部のKさん自身も感染者に対する根も葉もないわさが飛び交うさまを実感しており、誤った噂に流されないでほしいという思いがあるという⁵³。

編集部のKさんはコロナ関連の報道を通じた地域貢献について、以下のように話す。

何より地域でクラスターが起きるたびに不安を感じる人も多いと思うので、不安を緩和できるようにできるだけの情報提供をしたということについては若干なりともこの地域に貢献できたのではないかと自負しています。SNSなんかも活用して、できるだけ細かに情報を伝えるようにはしてきたんですよね。うちの記者が高校に取材に行った際に、そこの先生が伝書鳩のツイートは情報が早いからフォローしなきゃというような話が生徒たちの間で出ているというような話を聞いてうれしかったというような話は聞いています。⁵⁴

新型コロナウイルス関連のニュースは、特に速報性が重視される誰もが知らなくてはならない情報であり、そういった面で地域のだれもが同じ立場で情報を得られるという日刊フリーペーパーの強みが最大限に発揮されるものであったと考えられる。また、ただ情報を伝えるだけでなく、読者の声を拾い上げることで、初めての状況下においても安心を得られるような紙面づくりがなされている。

⁵² 2021年12月1日、東相内地区在住の女性のメール回答より

⁵³ 2021年10月29日、経済の伝書鳩編集部Kさんへの聞き取りより

⁵⁴ 2021年10月29日、経済の伝書鳩編集部Kさんへの聞き取りより

6-3 留辺蘂高校問題

高校配置計画案の中で、留辺蘂高校の2023年度募集停止案が盛り込まれたのが、2020年6月1日のことである。編集部のKさんへの1回目の聞き取り調査を行ったのが2020年6月の下旬で、経済の伝書鳩がどのように地域に貢献しているのか、ということについて以下のような話を聞くことができた。

われわれが主体となって何かをする、ということはあまりないのですが、地域の高校の廃校を阻止しようという運動を連載で取り上げたりだとか、何かの施設がなくなるときにそれを残してほしいという住民活動を積極的に取り上げるだとか、そういう住民の動きを広く知らしめるというようなことはやっていますね。道の高校配置計画の中で高校の募集停止案というのがあって、なんとか高校を存続させようという動きが留辺蘂高校さんの方であるので、現在も連載に向けて準備しているところですね。⁵⁵

実際に、2020年6月下旬から複数の連載企画が紙面上で展開された。記事の具体的な内容については後述する。

2020年の存続活動について、2人の留辺蘂高校関係者から話を聞くことができた。一人は留辺蘂高校PTAのYさん、一人は留辺蘂高校教員のIさんである。PTAのYさんは次のように語ってくれた。

まずは留辺蘂地域から存続に向けた署名活動を始めまして、そのあと2020年のPTA会長が北見自治区の方だったので、北見自治区の方でも署名を集めました。全国各地に散っている卒業生からも署名が集まって、7月に道教委の方に署名を提出しました。署名の数は最終的には12,500を超えていましたね。2020年の会長は経済の伝書鳩だけじゃなくて北海道新聞の方にも記事を掲載してもらったり、テレビに出演したりしていました。いろんなメディアで積極的に発信を行っていらっしゃいましたね。

⁵⁶

また、地域住民との関係性について、教員のIさんは、以下のように話す。

存続にあたってすぐに動いてくれたのは留辺蘂ロータリークラブ、留辺蘂商工会議所など、地域の団体の方々に、主に資金援助をしてくれました。

⁵⁵ 2020年6月24日、経済の伝書鳩編集部Kさんへの聞き取りより

⁵⁶ 2021年11月15日、留辺蘂高校PTAのYさんへの聞き取りより

うちの学校は密にならないので、花火を打ち上げようということでそのときに留辺薬地域の住民の方に呼びかけて来てもらいました。ほかにも学校祭にお呼びして、住民の方に手品を披露してもらったりとか、意図的に住民の方を巻き込んできたということはあるんですね。それによって学校の良さを肌で実感してもらって、学校のことを知った住民の方が別の人を引き連れてきてくれて、より多くの方が活動に携わってくれるようになりました。地域住民が一丸となって頑張っているという点に共感して伝書鳩さんも力を貸してくれたんだと思います。⁵⁷

経済の伝書鳩は留辺薬高校の存続活動を積極的に記事にしてきた。

署名活動の開始から提出まで、生徒会の活動、留辺薬まちづくり協議会の動きなどについて記事で取り上げたのに加え⁵⁸、複数の連載企画を通して読者に問題を伝えた。

2020年6月26日・27日には「連載 存続願う熱いメッセージ紹介」と題し、啓発チラシの裏面に書かれた2020年の留辺薬高校PTA会長のメッセージを、2回に分けほぼ全文掲載している。その後、「シリーズ留辺薬高校存続への道探る 高校配置計画案説明会より」というタイトルで、公民館で道教委によって開かれた高校配置計画案説明会の様子を7月7日から8月1日まで9回にわたって掲載している。この連載では、留辺薬高校の変遷や留辺薬自治区内の中学校卒業生数の減少など、募集停止案の背景となる部分を解説したうえで、参加者からどのような声が出たのかを詳細に綴っている。地元で働く卒業生や子を抱える地域住民など様々な参加者の発言を取り上げ、中には記事の大部分が同窓会副会長やPTA会長といった参加者の発言で占められている回や、高校振興局事務員の発言を出発点に廃校の影響を解説する回もある。

編集部のKさんによると、以前から取材に行く中で地域と連携をとりながら熱心な取り組みをしている学校という印象があり、伝書鳩としても廃校の候補に挙げたことが驚きだったため、事態を重く受け止めて連載に至った。また、配置計画を受けて学校関係者や保護者から広告依頼が来るようになったことも積極的に記事にしてきた背景にあるという。実際に地域の声を細かく取り上げてくれてありがたうというような声ももらっており、留辺薬高校のPTAの方からも大変喜んでもらったという⁵⁹。

存続活動の中で経済の伝書鳩が果たした役割について、留辺薬高校教員Iさんは以下のよう話す。

インターネットの情報を得られない高齢者層であるとか、新聞を購読していない層にも草の根的に情報がいきわたるという強さがあったと思います。伝書鳩はうちの高校の特集を組んで問題を掘り起こし、理解を図ってくれました。それによって地

⁵⁷ 2021年11月15日、留辺薬高校教員Iさんへの聞き取りより

⁵⁸ 2020年6月27日掲載「留辺薬高校存続問題を報告」など

⁵⁹ 2020年8月12日、経済の伝書鳩編集部Kさんへの聞き取りより

域の人が問題を認知してくれましたし、今では関心を持った人は直接学校の方に問い合わせしてくれるようになりました。

北海道新聞さんとか、ほかのメディアでも活動の意義を理解してもらったうえで高校の話題を取り上げてもらっていますが、反応がよりダイレクトに来るのは伝書鳩の読者です。やっぱり北見市周辺の情報発信においては強いなと実感しますね。紙媒体なので何度でも見られますし、そのおかげで住民間で話題になるという強みもあると思います。⁶⁰

留辺薬高校教員のIさんによると、2021年に入ってから高校の活動の方向性は、2020年とは異なるものになってきている。2020年は表に出て大きく活動するということをやっ、署名を通して道教委の方に想いを伝えることはできたので、2021年は学内を整えていく方向にシフトしようということになり、部活動の発足や資格取得の支援など、中学生が魅力的に感じるような改革をしているという。また、2021年のPTA会長は留辺薬まちづくり協議会の委員も務めており、そこで北見市や市長に働きかけをしているという⁶¹。

2021年に経済の伝書鳩が果たした役割について、PTAのYさんは以下のように話す。

2021年は表立った活動が減ったということもあって、2020年に比べて掲載数としては減ったと思いますが、部活動などでの生徒の活躍を掲載してもらっています。商工会議所にいっても高校の印象が良くなったというような反応を得られるようになりました。⁶²

また、教員のIさんは以下のように話す。

2020年12月にEスポーツ部を発足させたのですが、その際に伝書鳩に大きく広告を出しました。それを見て活動を知った地域住民からの反響は大きかったですよ。やっぱり伝書鳩はコミュニティごとに周知を図れるという強さがあると思いますね。何かぶち上げるというか、活動を広げるきっかけになりやすいなと実感しましたね。

⁶³

編集部のKさんは留辺薬高校について以下のように話す。

今後もどんな形になるかわからないですが留辺薬高校を追いかけていきたいなとい

⁶⁰ 2021年11月15日、留辺薬高校教員Iさんへの聞き取りより

⁶¹ 2021年11月15日、留辺薬高校教員Iさんへの聞き取りより

⁶² 2021年11月15日、留辺薬高校PTAのYさんへの聞き取りより

⁶³ 2021年11月15日、留辺薬高校教員Iさんへの聞き取りより

う気持ちはありますね。間口が減るということは地方においてはかなり重要なことでもありますし、学校がなくなると子どもたちがいなくなってしまう、過疎化衰退につながってしまいますからね。⁶⁴

このように、留辺蘂高校の存続活動の中で、経済の伝書鳩は地域内に情報を浸透させたという点で重要な役割を担ったことが分かる。

先述した通り、地域報道においては、地域メディアが地域社会と運命を共にする当事者であるという意識、「当事者ジャーナリズム」が重要であるとされる。留辺蘂高校関連の報道では、単に経過を報告するのではなく、存続活動の中心にいる人たちが何を語ったか、どのような思いを持っているのか、ということ伝えるために紙面を費やしており、まさしく問題の当事者の立場から情報を発信した事例といえるだろう。編集部 K さんへの聞き取りから一高校の問題としてではなく、地域全体の問題であるという認識も見受けられる。

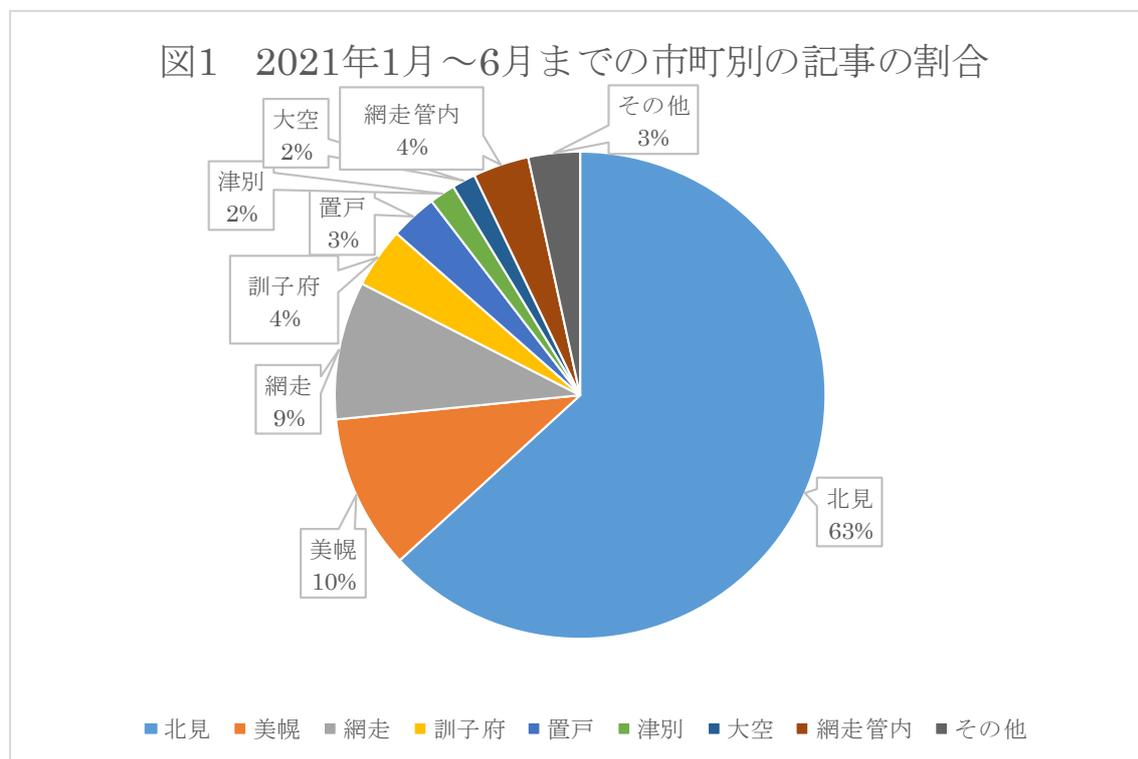
⁶⁴ 2021年12月7日、経済の伝書鳩編集部 K さんへの聞き取りより

7 経済の伝書鳩が抱える課題

日刊フリーペーパーという特徴を活かし、地域住民への情報伝達を通して地域に貢献している経済の伝書鳩だが、調査を通して複数の課題を抱えていることが分かった。本章では3つの課題とそれに付随する問題について詳細や背景を示し、解決の糸口を探る。

7-1 話題の地域的偏り

1つ目の課題は紙面上で扱われる話題の地域的な偏りである。図1の通り、2021年1月から6月までの記事の中で、60%以上が北見市の話題であり、他地域の話題はいずれも10%以下にとどまっている。



筆者作成

編集部の K さんからも、各地に記者がいるが、配布エリア全体を挙げての記事が弱い部分がこれまでであったという話や、取材依頼の多さや人口比の大きさからどうしても北見市の話題に偏りがちになるという話があった。2021年3月の連載「2市5町に緊急アンケート」では配布エリア全域の行政にコロナについてのアンケートをとった結果について書かれていたり、2019年9月の連載「連載 訓子府・置戸町の高校支援策」では訓子府町・置戸

町での間口削減や閉校を防ぐための独自の高校支援策について書かれていたり、課題の解消に向けた取り組みを行っているという⁶⁵。

7-2 経営上の問題と公共性の維持

2つ目の課題は地域密着型フリーペーパーの経営の難しさである。

表3で示したように、1992年に帯広支店の閉鎖という出来事があった。この出来事について、編集部のKさんは以下のように話す。

帯広方面は十勝毎日新聞という極めて強い地域に特化した新聞があるんですが、そこは夕刊なんです。われわれも夕刊なものですからまっすぐぶつかる部分があったということ、それから人口の比率、大きすぎる街でも日刊の配布は難しい、小さすぎる街でも経済の規模を考えると配布が難しい、そういう意味で言いますと帯広はちょっと日刊でフリーペーパーを配るには、私共の事業でいえば体力的には厳しい状態であったということですね。仕事がですね、帯広には豊富にある。私共の紙面を配る仕事を選ばなくても、他にたくさん仕事があり、宅配員というアルバイトの方の確保にも苦労しましたし、十勝毎日新聞の強さにも圧倒されたという部分はあります。⁶⁶

Kさんによると、今も様々な経済情勢の変化のあおりを受け、採算の取れない地域もあり、縮小を検討せざるを得ない状況にある。コロナ禍で人を集めたくない販売店側の思惑でチラシ・広告が減り、大きな打撃を受けた結果、2020年まで行っていた土曜日の配布を2021年からはやめたという⁶⁷。聞き取りを行った複数の読者からは「紙面のページ数が減少したとを感じる」という声も聞かれた。これは、「配布網の維持コスト」(久保, 2013:402)というフリーペーパー業界全体が抱える課題であると言える。

経営面の課題に関連して、ターゲット層や公共性の面でも課題に直面している。

編集部のKさんによると、経済の伝書鳩という名前をうたっただけで、社会人・経営者が望むような経済的なニュースが弱いため、経済ネタを増やそうという形で模索しているが、難しい部分があるという。その原因について、Kさんは以下のように話す。

ここまで内情をお話しするのもどうかと思うんですが、広告をいただいているオーナーさんの話題を取り上げることによって、うちをよく利用してくださるライバ

⁶⁵ 2021年10月29日、経済の伝書鳩編集部Kさんへの聞き取りより

⁶⁶ 2020年6月24日、経済の伝書鳩編集部Kさんへの聞き取りより

⁶⁷ 2021年12月17日、経済の伝書鳩編集部Kさんのメール回答より

ル企業から不満が出るということが考えられますよね。そういうところで二の足を踏んでいるというのが現状で、最近の流れとしては、広告をいただいているオーナーさんのところの記事をちょこちょこ出していると、そういう形で少しずつ広告と記事の連動みたいなことを意識して取り組んでいるところです。寄付やごみ拾いなど企業の地域貢献の記事の中には広告の付き合いがまったくないところのものもあつたりしたんですよ。いろんな施設とか団体が企画する各種イベントみたいなものもべつまくなしに掲載してきたんですが、かたや無料でやるイベントにもかかわらず広告を出してくださるところがあり、かたや有料でも普通に記事にしてきたという不公平極まりない部分があつたのも事実なんですよ。そういったところも今線引きして、広告の付き合いがないところはお断りして、広告を出していただければ記事にすることもできますというようなお話をしています。⁶⁸

編集部の K さんは、今までなかったところから広告が出るようになったケースもあり、新たな支援が生まれるという意味でこの線引きは間違っていない選択だとしたうえで、葛藤が伴うものでもあるという。記事の掲載を断ると、今まで記事を出してくれていたのという人もいて、どこまで読者に寄り添ってより良い情報を出せるかというところでも心苦しい部分はあるという⁶⁹。

これも先述したフリーペーパーの経営の難しさという課題に関連しており、広告収入のみに依存していることが引き金となり、読者に寄り添った紙面から遠ざかってしまう可能性がある。公共性と広告オーナーへの気遣いを両立した紙面づくりは一筋縄ではいかないということが分かる。

7-3 潜在的な地域課題への対処

3つ目の課題は、潜在化している地域的課題をどう掘り起こすか、という問題である。

2018年までは留辺蘂地域とは縁がなかったという留辺蘂自治区の住民の方は、留辺蘂地域の魅力を語ってくれたうえで、以下のような話をしてくれた。

経済の伝書鳩はもっと地域の魅力が読者に伝わるような記事を増やしてほしいと思います。北見市は合併して広くなりましたが、それによって末端にまで目が行き届いておらず、地方が見殺しにされているように感じます。各地区の意見をまとめあげることができるとしたら、その役割は経済の伝書鳩にしかできないと思います。この地

⁶⁸ 2021年10月29日、経済の伝書鳩編集部 K さんへの聞き取りより

⁶⁹ 2021年10月29日、経済の伝書鳩編集部 K さんへの聞き取りより

域のオピニオンリーダーに十分なりえる。⁷⁰

影山裕樹によると、地元の人でさえ気が付かない地域の魅力を掘り起こすために、外部の視点から地域を批評することが必要である。分断されたコミュニティをつなぎ合わせ、地域のみinnで価値を考え直せるようにする、そんな役割がローカルメディアに求められるという(影山, 2018:247)。岡村圭子も同様に、地域の外をよく知る住民の新たな地域の魅力を掘り起こす可能性を指摘している(岡村, 2011:276)。

地域の魅力を掘り起こすという観点からみれば、先述したような歴史や自然に関する連載を行っていることから、経済の伝書鳩は十分な役割を担っているようにも感じられる。また、編集部のKさんによると、2020年に地元民があまり行かないところにスポットを当てる連載企画を「プチ秘境」と題して行ったところ、アクセス方法を教えてくれという問い合わせが殺到したという⁷¹。

一方で、合併したことで住民の声が行政に届きづらくなったように感じる、北見市全体の地域力が低下しているなどといった声は、聞き取りを行ったほかの年配の地域住民からも上がっていた。地域に根差した住民にとっても、合併はよいことだったのかと疑問視する見解があることが分かる。

編集部のKさんによると、記者は全員オホーツク地域出身の方だという⁷²。地域外の人材を取り入れることで、紙面上に新たな要素を加えることができ、弱体化した地域住民・コミュニティのつながりを再生していくことができる可能性はあるのかもしれない。

7-4 小括

以上のように、紙面、読者ターゲット、経営、配布地域などあらゆる側面での課題を抱えていることが分かった。とりわけ経営面では、昨今の経済情勢の影響を強く受け、フリーペーパーが抱える根本的な弱点に直面しており、購読料を取らずに毎日紙面を発行することの難しさが明らかになっている。新たな広告オーナーを開拓しながら、あらゆる属性の地域の人々に喜ばれる紙面を作っていくのは非常に困難な取り組みになっていくと思われるが、そのためにはこれまで獲得してきた地域での信頼を生かしながら、地域の人々に寄り添い続けることが必要になっていくのではないかと考えられる。

⁷⁰ 2021年11月15日、留辺蘂自治区在住の男性への聞き取りより

⁷¹ 2021年12月7日、経済の伝書鳩編集部Kさんへの聞き取りより

⁷² 2021年12月7日、経済の伝書鳩編集部Kさんへの聞き取りより

8 結論

地域再生において重要な役割が期待される地域メディアの中でも、地域密着型フリーペーパーは多様な形態の地域貢献を実現している。この現状を踏まえ、本稿ではオホーツクエリアの日刊フリーペーパー『経済の伝書鳩』について、記事調査や関係者からの聞き取りを行い、各ジャンルの記事を通してどのような社会的機能を果たしているのかを明らかにしてきた。

地域の歴史や自然を取り上げる記事では、高齢者層の話題に上がることを意図しており、地域住民が知見を発揮できるという側面もある。地域に眠っている魅力を掘り起こし、読者に共有する機能を担っている。

政治に関する記事では、住民にとって関心はあるけれども直接獲得しにくい情報を発信している。経済の伝書鳩は各市町から地域住民への情報伝達を迅速かつくまなく行えるメディアとして認識されており、信頼され活用されるような関係性がみられる。一方で、行政に関する記事の中でも、行政への批判的記事が見受けられ、そこでは地域住民に寄り添った報道がなされており、地域メディアにおいて重視される当事者性が発揮されているといえる。

読者からの質問や話題提供を通して記事を書いたり、地域住民を紹介する記事を積極的に掲載したりすることで、他のメディアとの差別化を図ることができ、地域住民にとって身近な紙面を実現し、住民同士のコミュニケーションにつながっている。また、地域の若年層を紙面上で取り上げることで、地域への帰属意識を高められる可能性も生み出している。投稿コーナーを設けることで地域住民の紙面上への参加を促し、地域住民の意見の発表の場としてだけでなく、読者目線で地域情報を発信できる場としても機能している。

地域住民全体に迅速に情報を発信したいというときや、一地域の課題を地域全体に発信して共有させたいというときに、強みを存分に発揮して地域貢献を果たしていることが分かった一方で、広告収入に依存するという弱点に付随した様々な課題に直面していることも明らかになった。

メディアとは言い換えれば媒介物、すなわち何かをつなぐものだ。特に地域メディア・ローカルメディアには地域につながりを生み出す機能が重視されている。深澤弘樹は地域メディアの地域の紐帯を強める役割や新たな連帯を生み出す役割を重視しており（深澤, 2013）、影山裕樹も分断されたコミュニティをつなぎ合わせる「乗り物」としてのローカルメディアの機能を重視している（影山, 2018:247）。

「つなぐもの」という視点から経済の伝書鳩を見つめ直すと、地域住民と行政、広告オーナーと地域住民、地域住民と市議会議員、地域住民同士など地域内の各主体につながりをもたらしていることが分かる。

6章3節で扱った留辺蘂高校の事例は、存続運動の中心にいる人が地域住民とのつながりを獲得する手助けとして経済の伝書鳩が機能したと捉えることができる。そして、少なくとも

も留辺蘂自治区においては、地域の課題を自分のこととして捉え、解決に向けて住民が一丸となれるような土壌があるということを示した事例でもある。

このように、地域の課題を当事者として認識して解決に向けて動き出せるような地域住民を増やしていくことは、地域の衰退を防ぐためにも重要になってくるだろう。地域再生の可能性をつないでいくために、経済の伝書鳩ができることは、記者自身が地域の問題を自分自身のこととして認識し、地域住民に寄り添った報道をつづけることなのではないだろうか。より公共性を重視し、地域住民の愛着を高められるようなコンテンツづくりを追求し続けるということは、行政や住民からも期待され続ける部分になってくるだろう。そういった地域の各主体からの期待に応えていくことで、北見市・オホーツク地域の振興につなげることができ、ひいては経済の伝書鳩自身の発展にもつながっていくと考えることもできる。

すでに経済の伝書鳩は地域メディア・フリーペーパーとして、オホーツク地域にとって不可欠な存在になっていることは明らかである。また、経済の伝書鳩が存在することでオホーツク地域は地域力の向上に向けて他地域とは異なるアプローチができる可能性も秘めており、今後の動向に注目したい。

参考文献

- 稲垣太郎, 2008, 『フリーペーパーの衝撃』 集英社
- 稲垣太郎, 2013, 「フリーペーパー, 新たな使命: 大学講座に見る教育効果と資料保存の意義」, 『情報の科学と技術』 63(10):415-420
- 岡村圭子, 2011, 『ローカル・メディアと都市文化—『地域雑誌 谷中・根津・千駄木』から考える—』 ミネルヴァ書房
- 影山裕樹, 2016, 『ローカルメディアのつくりかた 人と地域をつなぐ編集・デザイン・流通』 学芸出版社
- 影山裕樹, 2018, 『ローカルメディアの仕事術 人と地域をつなぐ 8つのメソッド』 学芸出版社
- 河邑厚徳, 2017, 『むのたけじ 笑う 101歳』 平凡社
- 久保まり子, 2010, 「フリーペーパーと地域貢献 持てる機能と資産を総点検して方策の追及を」, 早稲田大学メディア文化研究所編『メディアの地域貢献「公共性」実現に向けて』 早稲田大学出版部, pp.77-94
- 久保まり子, 2013, 「フリーペーパーとは何か?」, 『情報の科学と技術』 63(10):396-402
- 山後喬, 2014, 「フリーペーパー事業における成功要因: Hot Pepper と FLYING POSTMAN PRESS の事例研究」, 『東海学園大学研究紀要. 社会科学研究編』 (19):55-70
- 野口美都, 2010, 「地域におけるフリーペーパーの機能と役割 人や街の活性化に一役」, 早稲田大学メディア文化研究所編『メディアの地域貢献「公共性」実現に向けて』 早稲田大学出版部, pp.95-108
- 平野隆則・後藤千晴, 2021, 「コロナ禍における地域メディア需要の変化: 和歌山経済新聞からの一考察」, 『和歌山大学 Kii-Plus ジャーナル』 1: pp.105-109
- 深澤弘樹, 2013, 「地域メディアの意義と役割: 「つながり」と「当事者性」の観点から」, 『駒澤社会学研究』 (45):73-95
- 松江健介, 2013, 「フリーペーパーの多様化と未来」, 『情報の科学と技術』 63(10):409-414
- むのたけじ, 2011, 『希望は絶望のど真ん中に』 岩波書店
- 山田晴通, 2011, 「1980年～2005年の北海道における日刊新聞市場の変動」, 『コミュニケーション科学』 (33):115-148
- 山田晴通, 2012, 「平成の大合併と地域メディアをめぐる動向」, 『コミュニケーション科学』 (36):3-30
- 米倉律, 2010, 「社会関係資本と放送メディア: 変貌する地域・コミュニティと『孤独なテレビ視聴』」, 『放送メディア研究』 (7):57-90

依光隆明, 2008, 「誰に向けて書く? 地方紙記者の可能性」, 花田達朗編『「個」としてのジャーナリスト 石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞記念講座 2008』早稲田大学出版部, pp.54-67

参考 URL

株式会社伝書鳩, 2021, 「株式会社伝書鳩 | 経済の伝書鳩 | 北見・網走・オホーツクのフリーペーパー」

<https://denshobato.com/>

同上, 2021, 「(株)伝書鳩 会社案内／沿革」

https://denshobato.com/hato_profile/enkaku.php

北見市, 2017, 「北見市合併検証報告書」

https://www.city.kitami.lg.jp/common/img/content/content_20210621_190754.pdf

同上, 2021, 「行政・まちづくり」

<https://www.city.kitami.lg.jp/administration/town/>

北見市都市建設部都市計画課, 2020 「北見市緑の基本計画 概要版」

https://www.city.kitami.lg.jp/common/img/content/content_20210506_143053.pdf

北海道新聞社, 2017, 「北海道新聞 媒体資料 2017」

<https://adv.hokkaido-np.co.jp/media/mediainfo.pdf>

同上, 2018, 「北海道新聞 媒体資料 2018」

<https://adv.hokkaido-np.co.jp/media/mediainfo2018.pdf>

同上, 2019, 「北海道新聞 媒体資料 2019」

<https://adv.hokkaido-np.co.jp/media/mediainfo2019.pdf>

同上, 2020, 「北海道新聞 媒体資料 2020」

<https://adv.hokkaido-np.co.jp/media/mediainfo2020.pdf>

同上, 2021, 「北海道新聞 媒体資料 2021」

https://adv.hokkaido-np.co.jp/media/mediainfo2021_02.pdf